人道の港　敦賀港

ユダヤ人を救った「命」のビザと　敦賀「港」

白川文字学ニュース

No.19

発行２０１９年７月
福井県教育委員会
生涯学習・文化財課

明治三十二年七月、敦賀港は外国貿易港に指定されました。後に約六千人のユダヤ人難民を受け入れたことから「人道の港」とも呼ばれています。

命

３学年配当漢字

メイ・ミョウ・いのち

【金文】

儀礼用の深い帽子をかぶってひざまずく人

さい（神さまへの祈りの文を入れる器）

「命」は「令」に「口」を加えた形だよ。

神さまに祈り、与えられたお告げを「命」と言いました。また、「**いのち**」も神さまから与えられたものだと考えられていました。

港

３学年配当漢字

コウ・みなと

上は「共」両手でものをささげる形

【篆文】

水が流れる形

下は「邑」城壁とひざまずく人

右側の「巷」は、「にぎやかな所」という意味です。水（さんずい）が加わり、河口の船着き場「**みなと**」の意味となりました。

杉原千畝の「命のビザ」

一九四十年七月、リトアニアでは多くのユダヤ人がナチスから逃げようと、国外に行くための通過ビザを求め、日本領事館に押し寄せました。領事代理だった杉原千畝は、外務省の方針に背き、ビザを発給し続けました。当時の新聞によると、ヨーロッパからロシアを通って敦賀に上陸し、アメリカ等に流れていったユダヤ人難民は、六千人とも言われています。

【参考資料】

・常用字解

・白川静博士に学ぶ　漢字の世界へ